

テサロニケの信徒への手紙― 5章16節「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」 この手紙が書かれた当時のテサロニケの信徒たちは、迫害や混乱の中にありました。使徒パウロは、そのような困難な状況にあっても、神が共にいてくださり、希望を与えてくださるといふ真理を伝えています。「いつも喜んでいなさい」という言葉は、困難な時であっても、神への信頼を通じて喜びを見出すことの重要性を示しています。私たちの日常で迫害を受ける事はありませんが、困る事や面白くない事があります。ここで女性として衝撃を受けた図書館の本を紹介します。「秋田美人と川反芸者」の本で、実の父親が娘を売って、お金を得た事実が書かれています。衝撃です。小学校の低学年しか学校に通えない女子がほとんどでした。「イスラムと仲良くなれる」本から。イスラム教の女性は、「ヒジャーブ」という布で髪の毛と体を隠さなくてははいけません。家族以外の男性との接触は禁じられていますし、自由に恋愛もできません。もし自分がその立場だとしたらと、想像してみてください。現代に生きる私たちは、食べる物があり、生き方をある程度選択できます。それでも心が満たされず、もっと私を大切にしてくれる友達や家族がここでなく別の場所にいけば存在するのでは？と思う日がありました。最近、友人や夫に同じ事を言われました。「いつも一緒にご飯を食べてくれてありがとう」「いつも気にかけてくれてありがとう」と。今、一緒にご飯を食べてくれる人が存在していたら、それだけで素晴らしいのだと気が付きました。喜びましょう。感謝しましょう。隣にいる人を大切に、理解しようと努めましょう。それが世の中や世界を理解することに繋がっていくのだと思います。感謝を続けていくことで、本物の喜びへと繋がるという解釈もあります。日々の生活は、たしかに喜ばしい事ばかりではありませんが、心から笑える時間、静かに流れる日常、誰かの役に立てることに、喜びを見出したいものです。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」